

## トピックス

### ■腎臓内科:

日本では慢性腎臓病 (CKD) 患者が約1,330万人、2017年は約4万1,000人が透析導入に至っています。CKD発症やその進行には高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や、肥満、食塩の過剰摂取、過度の飲酒、喫煙などの生活習慣も深く関係しています。また高齢によりCKDと診断される患者も増えています。当科はCKD看護外来、腎代替療法選択外来も併設しており、患者の生活に寄り添った治療の提供を心掛けています。また、腎炎が疑わしい患者には腎生検で診断、治療介入も行っています。



### ★CKD看護外来(完全予約制):

かかりつけ医と密に情報共有が必要な患者において、CKD連携手帳を用いて治療内容や治療方針について確認、連絡を行っています。本外来では外来看護師が患者よりバイタルや体調の変化、他科での投薬内容の変更有無、家族など介護者との関係性など問診を行い、外来医へ報告。必要な知識や介護サービスについてアドバイスも行っています。

### ■内分泌代謝内科:

糖尿病の診断から外来治療、教育入院、合併症管理まで幅広く対応します。一人の患者さんに医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、健康運動指導士など多くのスタッフが糖尿病診療チームとして関わり、きめ細やかな治療を実践しています。糖尿病腎症透析予防外来(DM健康管理外来)やフットケア外来(看護ケア外来)も併設しています。循環器内科や腎臓内科とも連携し、糖尿病と合併しやすい心筋梗塞や腎不全の治療もスムーズに行えます。また、パセドウ病や橋本病などの甲状腺疾患の治療にも力を入れています。パセドウ病では放射線科と連携して、131-I内用療法(アイソトープ治療)も実施しています。

#### 24時間連続血糖モニタリングシステム(CGMS)



#### フラッシュグルコースモニタリングシステム



### ■健康科学センター:

運動は疾患の一次予防や二次予防にとっても重要です。健康科学センターでは心大血管疾患(例:心筋梗塞・狭心症・閉塞性動脈硬化症など)をお持ちの方(保険適応)、メタボリックシンドローム(例:糖尿病・高血圧・脂肪肝・肥満など)をお持ちの方(保険適応外)に運動を主として行いながら、生活行動や食事、禁煙など患者さま一人一人の状況に合わせて、疾患目標を立て一緒にその目標を達成できるように心がけています。

# Clinical Report

2019

## 関西医科大学総合医療センター 循環器腎内分泌代謝内科

### 動脈硬化疾患へのマネージメント

部長

山本 克浩 循環器内科

不整脈治療センター長

高木 雅彦

健康科学センター長

朴 幸男

内分泌代謝内科科長

野村 恵巳子

腎臓内科科長

菊池 早苗



## 診療実績

### 外来患者数(初診)

循環器内科	19,994人(1,905)
腎臓内科	6,266人(279)
内分泌代謝	7,491人(523)

### 入院患者数(平均在院日数)

循環器内科	10,964人(8.4日)
腎臓内科(透析)	3,025人(16.9日)
内分泌代謝	1,884人(12.1日)

### 循環器内科

EKG	14,523件
UCG	6,172件
ホルター心電図	752件
ABI	3,818件
CAG	672件
冠動脈CT	340件
負荷心筋シンチ	257件

### 内分泌代謝内科

甲状腺エコー	249件
--------	------

### 腎臓内科(透析)

入院	2,694回
外来	9,107回

## 治療成績

### 循環器内科

PCI:待機的	338件
緊急	119件
PTA	69件
PTAV	4件
心大血管疾患 リハビリテーション	2,204件

### 不整脈

ペースメーカー 植え込み	66件
ICD植え込み	15件
CRT-D植え込み	2件
カテーテル アブレーション	109件

### 腎臓内科

腎生検	24件
透析導入:血液透析	62人
腹膜透析	8人

### 内分泌代謝内科

パセドウ病 アイソトープ治療	7件
糖尿病運動療法	1,432件
糖尿病腎症 透析予防外来	1,070件
糖尿病 看護ケア外来	613件
糖尿病栄養指導	661件

## 診療アウトライン

当科の特徴は、循環器内科、腎臓内科、内分泌代謝内科の3つの専門内科で構成されています。また、透析センター、健康科学センターも管轄しています。当科が扱う疾患は、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病から、動脈硬化の進展に伴う、狭心症や心筋梗塞および下肢閉塞性動脈硬化症、腎機能の低下、不整脈、心不全の出現と多岐に渡りますが、それぞれ深く繋がっています。それぞれの専門内科が協力、連携しながら動脈硬化疾患、心不全および腎不全の予防に努めながら、それぞれの疾患の治療を進めています。地域の先生方との連携を深めながら、各専門内科間の連携もより強固に行っています。

## トピックス

### ■循環器内科:

#### <経皮的冠動脈形成術>(図1)

狭心症、急性心筋梗塞、心不全、重症不整脈への救急対応は、CCUにて365日24時間体制で行っています。経皮的冠動脈形成術におきましては、病変に応じて可能な限り撓骨動脈から低侵襲に行っています。また、治療対象病変が心筋虚血の原因となっているかの評価が非常に重要視されています。当科でも治療の適応には、FFRなどを用いて心筋虚血の有無を丁寧に確認しています。糖尿病、透析患者さんに多い、高度石灰化病変に対しましては、ローターブレードの使用ができる施設基準を満たしており可能な限り複雑病変には使用しています。最近では、エキシマレーザーを用いた冠動脈形成術やDiamondback360 Coronary Orbital Atherectomy Systemを用いた冠動脈形成術も行っています。



FFR画面(図1)

### ■不整脈:

#### <冷凍凝固アブレーション(クライオアブレーション)>(図2)

発作性心房細動に対するカテーテルアブレーションとして、最新のバルーン技術を用いた冷凍凝固アブレーション(クライオアブレーション)を北河内地区で初めて2019年4月から導入しました。バルーンを用いたアブレーションは学会認定不整脈専門医研修施設に限定され不整脈専門医の下で行われる最先端の治療であり、治療成績も1回のアブレーションで1年後の洞調律維持率が約80%と良好です。また、手技時間が短縮し患者さんに対する負担も軽減します。当院でも高周波アブレーションの手技時間の50%以下の時間でアブレーションを行っています。



クライオバルーンアブレーション(図2)

#### <高速高密度高解像度マッピングシステム>(図3)

複雑な回路を有する頻脈性不整脈に対する診断手段として、従来の3次元マッピングシステムでは解析困難であった微小電位に対してマッピングが可能となった高速高密度高解像度マッピングシステム(Rhythmiaシステム)を2019年8月から導入しました。心臓手術後の複雑な回路を有する心房頻拍や器質的心疾患に伴う心室頻拍など従来のシステムでは診断困難であった頻拍に対して詳細に診断が可能となり、アブレーションによる根治が可能となりました。



マッピングカテーテル

1分間に1800ポイント以上取得しスピーディーに3Dマップを構築

高精度、高密度、高速マッピング(図3)